

# 千葉の園芸

発行所 千葉市中央区市場町1-1  
公益社団法人千葉県園芸協会  
連絡先 043(223)3005  
発行日 毎月1日  
平成30年10月号

## 産地の課題や振興ビジョン等を踏まえた 野菜振興の取組について

生産振興課 園芸振興室

本県の野菜振興を効果的に推進するためには、県の振興計画の推進に加え、各産地の課題や振興ビジョン等を踏まえることが重要です。そこで県では、関係機関と連携し、県内の野菜産地と情報交換を重ねてきたところです。今後も、こうした情報交換を継続するとともに、現場の声を踏まえた施策を積極的に展開してまいります。

### 1 本県野菜の情勢と振興計画

本県は、温暖な気候や恵まれた立地条件、生産者の高い技術意欲に支えられ、全国屈指の農業県となっています。特に野菜については、農業産出額の約4割を占めるなど重要な部門であり、平成28年産の野菜産出額は1,927億円と、前年から150億円以上増加しています。しかし、全国順位については、平成25年産以降、北海道、茨城県に次ぐ全国第3位となっています。

こうした状況を打破し、生産力を更に強化するためには、地域の基盤となる『産地』と、生産を行う『担い手』の両輪を強化していく必要があります。県では、平成29年度に策定した『千葉県農林水産業振興計画』において、産地については『需要の変化に柔軟に対応できる産地の育成』を、担い手については、『高収益型園芸農業の推進』を掲げ、実現に向けて各種施策を展開しているところです。

### 2 産地との情報交換会

こうした取組の効果的な推進には、産地の課題や振興ビジョン等を把握・総括した上で、補助事業等の施策を展開することが重要です。そこで園芸振興室では、千葉県園芸協会や全農千葉県本部、農業事務所等の関係機関とともに県内の農協を訪問し、各産地の振興方針や直面する課題、県への要望等の把握を目的とした情報交換会を実施してきました。

その結果、施設野菜であるトマトやきゅうりについては、担い手の生産力強化に向けて「炭酸ガス施用技術等を活用した生産性向上」に大きなニーズがあることが分かりました。また、露地野菜やさつまいもについては、省力化による担い手の規模拡大に加え、新産地の創出や大規模集出荷貯蔵施設の整備による産地強

化にも大きなニーズがあることが分かりました。

そこで、これらの結果を踏まえ、補助事業の導入支援を積極的に行うとともに、県単事業の拡充や新規メニューの創出に着手し、「輝け！ちばの園芸」次世代産地整備支援事業については予算額を昨年度から拡充するとともに、施設園芸の生産性向上を目的として、『施設園芸スマート農業推進型』のメニューを新設したところです。

県では、今年度についても同様の取組を進めているところであり、こうした産地との情報交換会を通じて現場の課題やニーズを汲み取ることによって、新たな支援措置の事業化や関係機関との連携など、効果的な施策の推進を図ってまいります。

### 【次世代に向けた産地の目指す姿】

#### 【集出荷貯蔵施設や選果場の役割】

- ・農家の調整、出荷労力の軽減
- ・出荷品質の均一化やロットの拡大
- ・産地振興の拠点として情報交換や合意形成の場



- ・施設の新設、高機能化
- ・施設の統合、一本化
- ・利用者の拡大

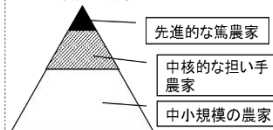
- ・県単事業(輝け!)
- ・国庫事業(強農・産地パワーアップ)
- ・その他事業(新規含む)



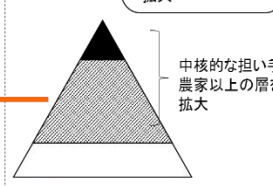
産地の規模拡大・施設の利用増加・ロットの拡大  
(生産・販売力の強化)

#### 【産地の構成員である農家】

- ・先進的な農家である篤農家
- ・産地を牽引する中核的な担い手農家
- ・中小規模の農家



- ・省力化機械の導入
- ・園芸用施設の新設
- ・ICT技術などの活用による反収の向上
- ・法人化による規模拡大



モデル的な農家の育成による  
出荷量の増加・経営の改善